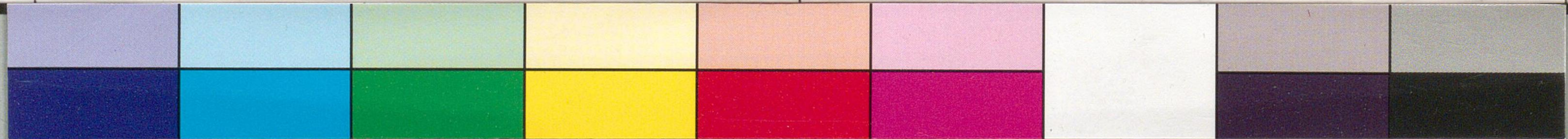
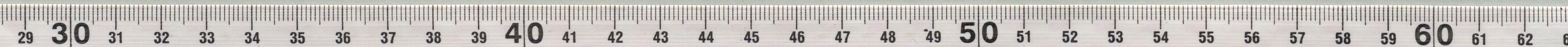


本論

第一部

歸納哲学

68



本論

第一部 歸納哲学

第三章 歸納哲学研究ノ四種方面

歸納哲学ニ於テハ四種方面ヨリ全宇宙一切属
有ノ根本的原理ヲ研究ス第一ニハ主觀的方面
第二ニハ客觀的方面第三ニハ相待的方面第四
ニハ絶待的方面即チ是ナリ

講述證明

第二十一節 歸納哲学ハ前各節ニ於テ之

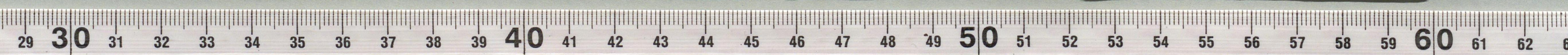
ヲ證明シタル如ク第一章ナル哲学ノ定義ノ

東洋原製

中ニ包含セラル、所ノ四種問題ノ中、第一
問題ヲ解決スルカ為ニ此全宇宙一切萬有
ヲ以テ其研究ノ對象トシ其研究ノ起點ト
為テ之ヲ表現シタル所ノ根本的原理ハ何テ
有ルカ語ヲ換ヘテ之ヲ言ハハ此全宇宙一切
萬有ノ真性質眞実相ハ何テ有ルカト云フ疑
問ヲ解決シテ以テ第二部門的哲学ナル演繹哲
学第三部門的哲学ナル現象哲学及ヒ第四部門
的哲学ナル規範哲学研究ノ根柢基礎ヲ定ム
ルヲ以テ其本分職掌ハ為テ而シテ吾人々類

東林書院製

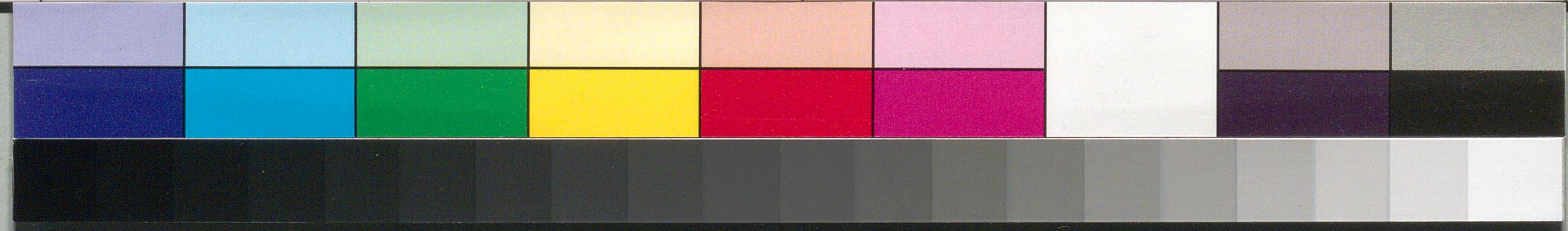
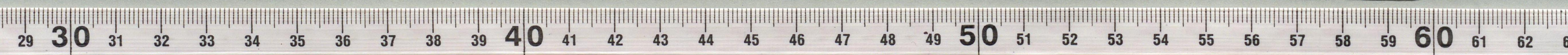
ノ眼前ニ表現セラレテ在ル所ノ此全宇宙一
切萬有各々ノ事物ヲ把テ之ヲ表現シタル所
ノ其根本的原理ニ還元シ歸納スルト云ハル
意味ヨリシテ歸納哲学ノ名称ヲ得タルナリ
第二十二節 而シテ此全宇宙一切萬有ノ何
モノタルヲ知ラムトスルニ當リテ第八節參照
此全宇宙一切萬有ニ必テ其根本的原理無
ル可ラスト新定シテ之ヲ行ハセムトスル所以ノ理由ニ溯リテ之
ヲ一言スレハ此全宇宙一切萬有中各々ノ事
物ハ皆依他の依存的ニシテ一モ自存獨立ス



ルヲ得ル者無之依他的依存的トハ此全宇宙
一切萬有中各々ノ事物ハ皆互ニ此各々ノ事
物ニ非ル所、他ハ事物ニ依テ存スルヲ
得ルト云ヘルト云テ我ノ我トテ存スル
ヲ得ルハ我ニ非ル所、他ノ全宇宙一切萬有
各々ノ事物存スルカニ依テ我ト關係シ其レ
ト比較對照セラル、ニ依テ我トテ存
スルヲ得ルカ故ニ大ニ獨リ大ナルヲ能ハ
ス他ノ小ナルモノト比較對照セラル、ニ依
テノ大ナル小ナルモノト比較對照セラル、ニ依
テノ大ナル小ナルモノト比較對照セラル、ニ依

東洋堂製

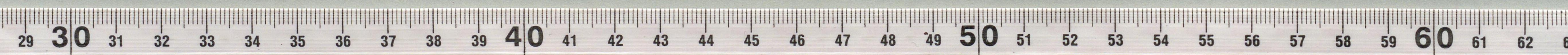
ノ大ナルモノト比較對照セラル、ニ依テノ
ミナタリ原因ハ獨リ原因タルヲ能ハス他ノ
結果ト相待的ニ關係スルニ依テノ原因タ
リ結果モ亦獨リ結果タルヲ能ハス他ノ原因
ト相待關係スルニ依テノ結果タリト云ヘ
ル如ク此全宇宙一切萬有中各々ノ事物ハ皆
依他的依存的ニテ一ニ自存獨立スルヲ得
ル者無シ之ヲ有リト云ヘハ有ルカ如クナリ
ト雖モ一ニ自存獨立スルヲ得ルノ力無キカ
故ニ無シト云ヘハ無キカ如ク無シト云ヘハ



切實有ラ以テ其研究ノ對象ト爲シ其研究ノ
起発點ト爲スル至テ無限無量ニ散漫複雑ナ
ル此全宇宙一切萬有中各々ノ事物ヲ把テ一
々之ヲ研究シ檢査セムト欲スルカ如キハ
蓋不可能ノナリ是ニ於テ乎各専門経験的
科学研究ノ結果其^ト頭極處ニ於テ哲學的問
題トシテ遺^ニ所ノ四種問題有リ第一ニ主
觀的方面ニ於ル主觀的精神ノ本質ニ關スル
所ノ問題第二ニ客觀的方面ニ於ル客觀的
自然ノ本質ニ關スル所ノ問題第三ニ主觀的

無キカ如クナリト至モ究然トシテ老人ノ眼
前ニ表現セラル^ルカ故ニ有リト云ヘ^ル有ルカ
如クナリ佛教ニ因縁生ト云ヒヘウクリタ
又等ガ矛盾轉化ナド云ヘルハ即テ此事^ヲニシ
テ此有^ルノ如クニシテ無^ニ無ノ如クニシテ有^ト
ル所^ノ全宇宙一切萬有ニ必ス之ヲシテ然ラ
ラシムル所^ノ根本的原理無カ^ル可ラスト斷
定シテ之ヲ研究セムトシタル者タルニ外ナ
ラズルナリ
第二十三節 歸納哲學ニ於テハ此全宇宙一
切實有ラ以テ其研究ノ對象ト爲シ其研究ノ
起発點ト爲スル至テ無限無量ニ散漫複雑ナ
ル此全宇宙一切萬有中各々ノ事物ヲ把テ一
々之ヲ研究シ檢査セムト欲スルカ如キハ
蓋不可能ノナリ是ニ於テ乎各専門経験的
科学研究ノ結果其^ト頭極處ニ於テ哲學的問
題トシテ遺^ニ所ノ四種問題有リ第一ニ主
觀的方面ニ於ル主觀的精神ノ本質ニ關スル
所ノ問題第二ニ客觀的方面ニ於ル客觀的
自然ノ本質ニ關スル所ノ問題第三ニ主觀的

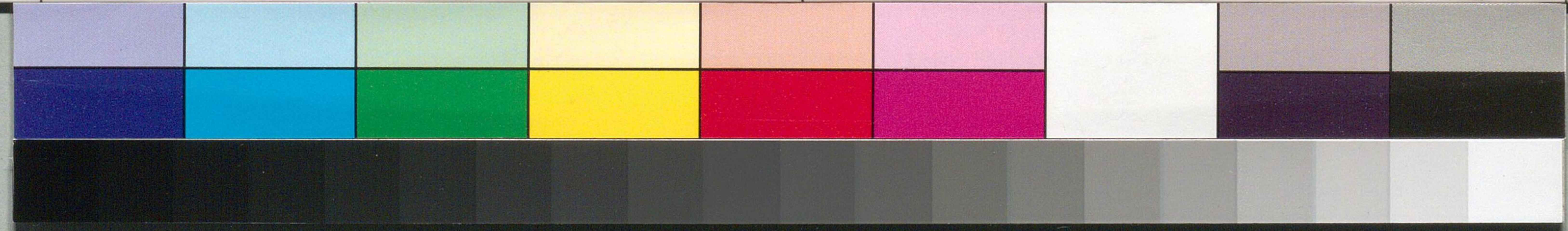
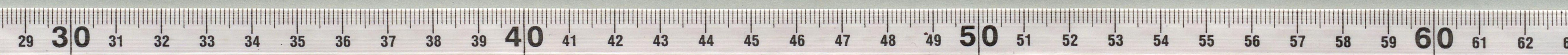
東林堂製



精神ト客觀的自他トハ相待的ニ互存^{スル}双立^{スル}之^ヲ
①スル所ノ二元ナルカト^{カト}三へル問題第四ニ
ハ主觀的精神ト客觀的自他トハ^原絶待的ニ互
底双立スル所ノ一元ナルカト云へル問題即
テ是ナリ此四種ノ問題ニ就テ一々精細ニ之
ヲ研究^シ檢覈スレハ無限無量ニ散漫複雑ナ
ル此全宇宙一切萬有中各々ノ事物ヲ把テ一
々之ヲ研究^シ檢覈シタルト全ク同一ノ結果
ヲ得ルカ故ニ本章ニ於テ主觀的方面ト客觀
的方面ト相待的方面ト絶待的方面ト四種

東洋書局製

方面^{ヲ以テ}全宇宙一切萬有ノ根本的原理ヲ研
究スル所ノ研究^シ的方面トシテ之ヲ茲ニ列挙
シタルナリ
第二十四章^節 從前哲學上ニ於テ慣用ニ來レ
ル所ノ主觀^サアセクト客觀^オアセクトノ二
語ニハ兩様ノ意味有リ第一ノ意味ヨリシテ
之ヲ云へハ認識スル所ノカ即チ認識ノ主ト
爲ルモノヲ主觀ト云ヒ認識ノ對象トシテ認
識セラレ、所ノモノハ其物質タリ精神若シ
クハ其力用タルヲ同ハスシテ之ヲ客觀ト云



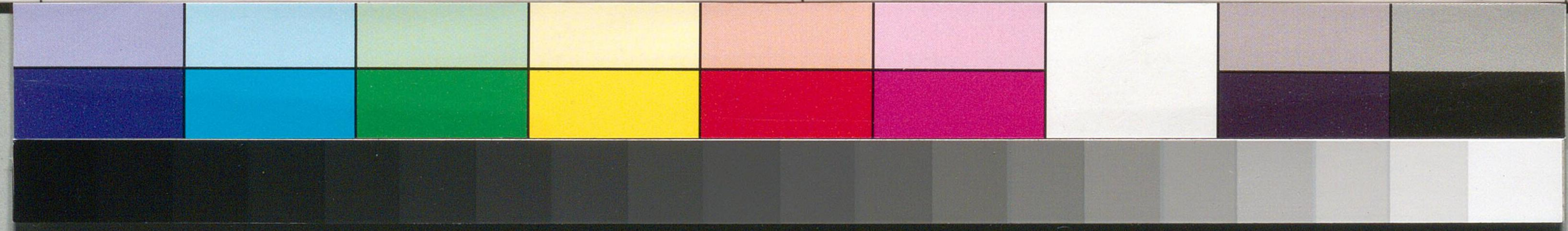
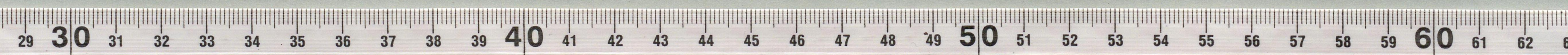
フ第二ノ意味ヨリシテ之ヲ言ハハ精神及ヒ
其カ用ニ属スル所ノモ^イノヲ合シテ之ヲ主観
ト云ヒ精神及ヒ精神ノ中ニ起ル所ノカ用ニ
非スシテ其對象トナル所ノ總テノモ^イノヲ客
観ト云フ故ニ今本章ニ於テ主観の方面客観
の方面ト云ヘルハ即テ第二ノ意味ニ近クシ
テ主観的精神ノ方面客観の自然ノ方面ト云
ヘルト全ク同一ナリ

第二十五節 歸納哲學研究ノ四種方面ノ一
一ナル主観の方面^イ 主観的精神ノ

東洋製

本質ニ關スル所ノ問題ヲ解決ス
ル所ノ研究の方面ニシテ主観的精神ト客観
の自然トノ關係ニ於テ主観的精神カ變動
の方面ニ立テ受動的ナル客観の自然ヲ認識
スル所ノ方面ヨリ望メテ其受動的ナル主観
的精神ノ本質ヲ研究ス從前ノ哲學界ニ於テ
認識論又ハ精神哲學ト云ヘルモ^イノヲ皆
此主観の方面ニ於ル研究標數ノ中ニ之ヲ包
含ス

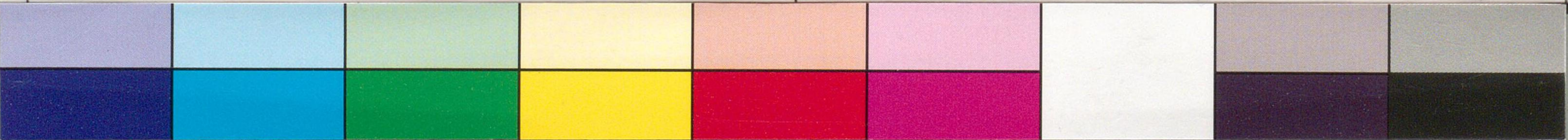
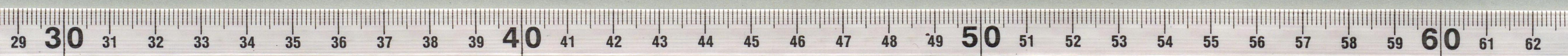
第二十六節 歸納哲學研究ノ四種方面ノ一
一ナル主観の方面^イ 主観的精神ノ



二十ル客觀的方面ノ研究ニ關スル所ノ問題ヲ解
決スル所ノ研究の方面ニ於テ主觀的精神ト
客觀的自他トノ關係ニ於テ客觀的自他カ
動的方面ニ立テ受動的ナル主觀的精神ニ自
己ヲ認得セシムルト云ヘル方面ヨリ望メテ
其受動的ナル客觀的自他ノ本質ヲ研究ス從
前ノ哲學ニ於テ形而上學自他哲學ト云フ
自然哲學ト云フカゾク若シクハ本有
學ト云フト口ジシナド云ヘルモノ皆此客觀的

第二十三

方面ニ於ル研究檢數ノ中ニ之ヲ包含ス
第二十三節 從前ニ於ル哲學各系統ニ於テ
往々哲學全部ノ大區分トシテ認識論ト形而
上學又ハ智識哲學ト自然哲學トニ部ニ大
別スル者有リト云フニ認得論又ハ智識哲學ト
形而上學又ハ自然哲學トニ元來表裏ノ兩面
ヨリシテ之ヲ望ムルノ相違タルニ過キサル
カ故ニ決シテ哲學全部ノ大區分トシテ別々
ヲ引キ離シテ之ヲ研究ス得可キモノニ非ル
ノミナラズ主觀的方面即チ認識論又ハ智識



哲学ト客観的の方面即チ形而上学又ハ自然哲
学トヲ研究シタル後ニ於テ双方互相ノ相待
的ナル關係ノ方面及ヒ其他待的ナル關係ノ
方面ヲモ併ビテ之ヲ研究スルニ非レハ甚々
不完全至極ナル研究タルヲ免レサルカ故ニ
本哲学系統ニ於テハ之ヲ第一部門の哲学ノ
中ノ第一方面第二方面ノ研究トシテ第三十
ニ相待的の方面第四十ニ絶待的の方面ト相並ヘ
テ之ヲ研究セムトスルナリ

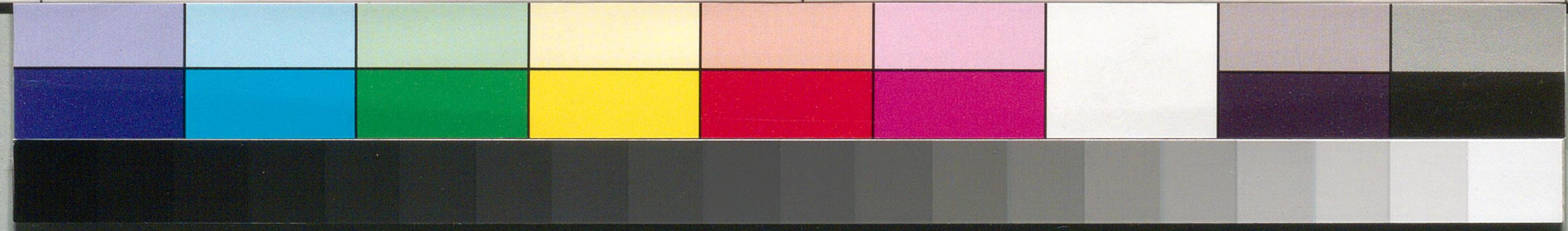
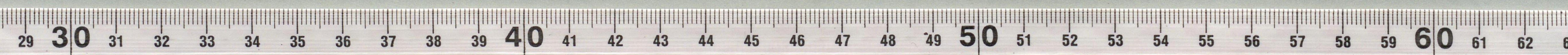
第二十七節 歸納哲学研究ノ四種方面ノ中ノ第一

東洋思想

三ナル相待的の方面ニ研究スルニ於テハ
ハル所ノ主観的精神ト客観的の自然トハ果シ
テ相待的ニ互存双立スル所ノ二元ナルカ否
ヤト云ヘル問題ヲ解決スル所ノ研究の方面
ニ於テ主観的精神ト客観的の自然トノ關係ニ
於テ双方俱ニ発動の方面ニ立チ主観的精神
ハ客観的の自然ヲ認識シテ其レヲシテ客観的
自然トシテ存在セシメ客観的の自然ハ主観的
精神ヲシテ自己ノ存在ヲ認識セシメテ其レ
ヲシテ主観的精神タルニシムルト云ヘル方面

主観的の方面ト客観的の方面トヲ合シテ之ヲ研究スルニ

双方発動的ナル

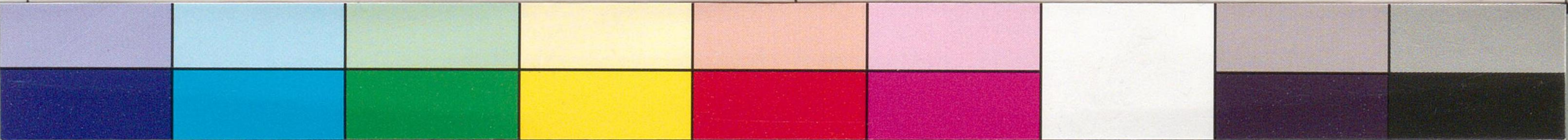
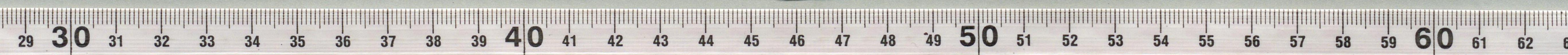


山ノ合ニテモ
知ル枯木ノ
トニテハ
トニテハ

ヨリ望ミテ其互存双立分異對待ノ力用ヲ研究ス
第二十節 歸納哲学研究ノ四種方面ノ中
ノ第四ナル絶待の方面ノ研究ハ第二十三節
ニ至ヘル所是又主觀的精神ト客觀的自他トハ
果シテ他待的ニ互依双立スル所ハ一元ノ兩
面ナルカ否ヤト云ヘル問題ヲ解決スル所ノ
研究の方面ニシテ主觀的精神ト客觀的自他
トノ關係ニ於テ双方俱ニ受動的方面ニ立テ
主觀的精神ハ只客觀的自他ニ依テシメウ
ルニ因テノ主觀的精神タルヲ得客觀的

東洋製

自他モ亦主觀的精神ニ依テラレニ因テ
ノ客觀的自他タルヲ得ルト云ハル方面ニ
リ望ミテ其互依双立融合一致ノ力用ヲ研究
ス
前節及ヒ前本節ニ於テ證明シタル所ノ相待
的方面及ヒ絶待の方面ノ研究ハ從前ノ歐羅
巴哲学即チ希臘系統ニ属スル所ノ哲学各系
統ニ於テハ多クハ之ヲ等用ニ付シ古代ニ在
テハヘラクリタス中世ニ在テハヤコブ、ヴェ
ル近世ニ在テハヘーゲルノ徒ガ少シク之ヲ



像定の想像的ヲ行サス所謂主觀的精神ノ主觀
的精神タルハ單ニ客觀的自然ヲ認識せし
ニ知覺し思考し理會し好悪連スルニ因テノ
主觀的精神タリ若シ此主觀的精神ヲシテ
主觀的精神タラシムル所ハ單一ナル力用即
チ客觀的自然トノ關係ヲ離レテ尚主觀的精
神有リト云フカ如キハ是經驗的事實ト背馳
ナリト所ノ一種ノ想像一種ノ假定タルニ過
キタルナリ又所謂客觀的自然ノ客觀的自然
タルハ單ニ主觀自然的精神ニ認識セラズ感

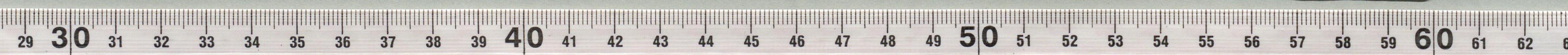
論究セムトニタルハ有リシニ印度系統ニ属スル所
ノ伊教哲学ニ至テハ始ニト其力ヲ此方面シ
用ヒタリト云テ不可無ル可シ只其宗教の本
分トシテ少シク絶待の方面ニ偏スル所有ル
第三十節 主觀的精神ト客觀的自然トノ
二者ノ中ノ何レガ此全宇宙一切萬有ノ根本
的原理ナリヤト云ヘル爭訟ハ古今未
數千年間歐羅巴哲学史ヲ終ル千古未決ハ向
題ナリ然リトモ余考テハ新ニ從ハル
哲学研究ニ於テハ一切假

東林堂製

實セラルル知覚セラルル意欲セラルル理會セラルル
好悪セラルル、二因テノニ客觀的の自然タリ若
シ此客觀的の自然ヲシテ客觀的の自然トシム
ル所^此ニ單一ナル力用即チ主觀的精神タルノ際
係ヲ離レテ^{而シテ}尚客觀的の自然有リト云フカ如キ
モ^{在リ}思^{全ク}經驗事實ト背馳セラルル所ノ一種ノ想
像一種ノ假定タルニ^此居キザルナリ
故ニ經驗的事實ニ^此徴^{高層ニ}テ^此テ^此ヲ^此新^此面^此スレハ主
觀的精神有ルカ故ニ客觀的の自然有リ客觀的
自然有ルカ故ニ主觀的精神有リト雖モ主觀

東洋學

的精神無シ^則客觀的の自然無シ^則客觀的の自
然無シ^則主觀的精神無シ^{ト云フヲ得可キナリ}
今此四句ヲ分析總合シテ
第一ニ主觀的精神有^{ルカ故ニ}客觀的の自然有リ
ト云モ主觀的精神無シ^則客觀的の自然無シ
ト云ヘ^ル方面^此ニ^此客觀的の自然ヲ研究候數シ
第二ニ客觀的の自然有ルカ故ニ主觀的精神
有リト云モ客觀的の自然無シ^則主觀的精神
無シ^{ト云ヘ}ル方面^此ニ^此客觀的の自然ヲ研究候數シ
第三ニ主觀的精神有^{ルカ故ニ}客觀的の自然有



リ客観的の自然有ルカ則主観的精神有リト
 三へル方面トヨリ客観的の方面ヲ研究ス
 第四ニ主観的精神無シ則客観的の自然無
 シ客観的の自然無シ則主観的精神無シト云
 へル方面ヨリ客観的の方面ヲ研究ス
 四種ノ方面ヨリ望ミテ此全宇宙一切萬有
 根本的原理ヲ研究セムトスルニ當リ第一方
 面ヨリ望ミテカ客観的の方面ヲ研究ス第二方面ヨリ
 望ミテカ客観的の方面ヲ研究ス第三方面ヨリ望ミテカ
 客観的の方面ヲ研究ス第四方面ヨリ望ミテカ

東林真潔

